

# 議会報告

～しぶやにとっての初議会  
12月議会のご報告～

## ■議会での役職・担当が決まりました

私にとって初めての議会となる12月定例会が12月1日から12月22日まで、22日間の会期で行われました。

市政は対象とする範囲も幅広く、内容も複雑です。そのため、西宮市議会では議会で上程される議案を専門的に、かつ、集中的に審議することを目的として、4つの常任委員会（総務・厚生・市民文教・建設）を設置し、議長・副議長を除いた全議員が1人1つの常任委員会に所属します。通常、各会派の議員は、会派ごとに割り振られた人数に基づいて所属を決めるのですが、私は補欠選挙で新たに当選した議員であることから、**厚生常任委員会に所属**させていただくことになりました。厚生常任委員会は、市民の皆様の健康や福祉環境に関わる問題を中心に取り組んでいます。12月定例会では、補正予算の見直しを中心に、西宮市立中央病院の経営状況改善のための施策、西宮浜にある食肉センターの経営状況、西宮市における介護保険の現状に関する報告等がなされ、行政に対して現在の状況および今後の方向性について確認しました。特別委員会では、**震災復興・防災対策調査特別委員会に所属**することになりました。

## ■初議会で感じたこと

西宮市には、46万人を超える方々が住んでいます。年齢も、置かれた状況も、考え方も、問題だと感じていることも、当然さまざまです。その中で、市はたくさんある問題を一つ一つ解決していこうと努力しています。初めての議会を経験した中で、多くの市職員が、懸命にさまざまな問題に取り組んでいることを実感しました。しかしながら、改善するべきだと感じる点もありました。予算に対する考え方もその一つです。企業では、コストを厳しくチェックして予算を作りますが、予算と比べて費用を削減できた場合、その実績は高く評価さ

れます。しかしながら、多くの自治体の予算の考え方は企業とは大きく異なります。執行率(※)が100%以下であり、かつ、100%に近いほどよい予算であるとされ予算よりも費用を削減できても「予算が甘かったのではないか？」と批判を受けるだけになってしまい、実績が評価されることはないのです。これは西宮市の場合も同様です。結果、継続して実施されている事業の予算は前年実績とほぼ同額に設定され、その執行率も常に100%に近いものとなっています。徹底した費用削減の努力がなされているとは考えにくい数値ではないでしょうか？

※ 事業遂行のために使用した金額が、予算の何%にあたるかを示す指標。

## ■前向きな気持ちを引き出す仕組みを！

**コストを削減する努力を行い、実績を上げたとしても、それが評価されることがないのでは、前向きにがんばろうとする職員のやる気がそがれてしまいます。**三重県では、コストの削減に成功した部局に対して節減金額の半分を財源に、翌年度、各部局で新規事業を自由に開始してよい予算として渡すという手法を実施しています。先進自治体はすでに予算重視主義を脱却して**結果を残した職員が、結果にふさわしい評価を受ける仕組み、前向きにがんばろうとする職員が、がんばり甲斐を感じる**ことができる**仕組みを作っている**のです。他の自治体にできて、西宮市にできないはずがありません。

市政におけるさまざまな問題に現場で取り組むのは個々の市職員です。市政の現状を改善し、さまざまな問題に効率的に取り組んでいくために、最も重要なことは、市職員一人一人の前向きな気持ちを引き出し結果を出した人を高く評価することができる制度や環境を整えていくことです。そのために、政策面での研究・提案を行ってまいります。

# 活動報告

～しぶやの活動と  
活動を通じて感じたこと～

## ■2005年の蒼志会街頭活動・第一弾を開始

1月12日から蒼志会の街頭活動が開始されました。2005年第一回目となる、この街頭活動は2月中旬まで続きます。蒼志会はこの活動を、結成以来、定例市議会が終了するごとに行っています。活動内容は、平日の早朝、市内の主要な駅頭に立って、蒼志会のメンバーが会報を配り、休日には駅前・スーパー前など多くの方々が集まる場所で、メンバーが順番に活動報告を行い、その間、他のメンバーが会報を配るというものです。私は、なによりも蒼志会のこの活動と、それを裏付けている考えに魅力を感じて、蒼志会のメンバーになりました。選挙の前にだけ姿を現して、ただ名前を連呼するだけの政治家。何が大事だと思っているのか、自分はどのような課題に取り組む、どういったまちをつくらしていきたいのかを明らかにしない政治家。普段、何をやっているのか見えない政治家。そういった政治家ではなく、**自分たちが問題だと思っていることを言葉に表し、その問題に対する自分の考えを明確にし、その問題を解決するための政策を多くの方にお伝えする政治家。そして、自分の考えと政策、問題解決のための取り組みを、胸を張って多くの方にお伝えできるように、しっかりと勉強し、行動する政治家。**これが、蒼志会の原点だと、私は考えています。「**行動する政治**」蒼志会と共に、これからも行動を続けてまいります。

## ■特別委員会の視察に行ってみりました

1月27日・28日の2日間で、震災復興防災対策調査特別委員会の管外視察に行ってみりました。行き先は東京都世田谷区と千葉県市川市。防災に関して先進的に取り組んでいる自治体ということで、今回の視察となりました。

とりわけ印象に残ったのは世田谷区立太子堂中学校の取り組みです。同校では、中

学生が地域防災の担い手となる日を目指して「地域自主防災活動」に焦点を当てて防災教育に取り組んでいます。具体的には、ポンプ実技講習会や救急技能認定講習会の受講、小中合同での避難所体験サバイバルなどです。また、太子堂小学校と合同で「健全育成地域連絡会」を結成したこともありこれらの取り組みには当初、予想していなかった効果もあったとのことでした。それは、**家庭や地域と連携した子どもの健全育成活動を進めてきた結果、昔はどこにでもいた、よその子どもでも悪い事をすればきちんと叱ってくれるおっかないおじさんが地域に復活し、一時は子どもたちが荒れていた太子堂中学校も今では、すっかり生活態度が落ち着きを取り戻した**とのこと。防災であれ、教育であれ、行政だけ、学校だけが行うのではなく、地域全体で取り組んでいくこと、行政がその取り組みをサポートしていくことの重要性を改めて強く感じる視察となりました。

## ■震災10年を迎えて

2005年、私たちは震災後10年を迎えました。

10年前の朝、私はまだ大学生で、下宿先の京都にいました。テレビで見たダンロップビルが傾き、阪神高速が43号線の上に崩れ落ちている姿。どうにか帰ってきた西宮で見た、見慣れたまちの変わり果てた姿。その中で、どうにか希望を持ち続け、暮らしている多くの方々の姿。すべてが決して、忘れることのできない記憶です。

2005年1月17日5時46分。雨の降る中、西宮中央商店街や高木小学校、多くの場所にたくさんの方が集まりました。私たちは、この記憶を風化させることなく大規模な災害にも対応できる体制をつくらなければなりません。ハード面での対応はもちろん重要です。けれども身近な近所付き合いを行い、共に助け合える人間関係を築きあげ、地域での自主的な取り組みを行っていくこともまた、それに劣らず大切なことではないでしょうか。